

教育目標&特色

昭和 19 年に設立された大阪市立医学専門学校から始まり、大阪市立医科大学を経て大阪市立大学医学部となった。最近の医学医療のめざましい進歩に対応するために、阿倍野キャンパスの整備・充実が行われ、新学舎の完成とともに医学部の専門教育に対する施設、設備が一新され、特に従来からの基礎医学部門に関連した実習設備などは全国でトップレベルに達している。医学部学舎の入口に智・仁・勇の三女神像が掲げられている。智の女神は左手で本を抱き、仁の女神は両手で薬壺をしっかりと支え、勇の女神は月桂樹を持っているが、三女神は医師として高度の医療知識と技術の修得、それに培われた行動力、そして人のもつ悩みや痛みを深く温かく受け入れる心を持つことを示している。医学科はこの理念をもつ医師の養成を目指している。

カリキュラムの特色

医学部における教育は、杉本キャンパスにおける 1 年次の一般教育から始まる。一般教育はもちろんのこと、入学直後には専門医の指導による心肺蘇生法講習会を開催。8 月には早期臨床実習を行い、一般病院での医療を実際に体験する。2 年次から 6 年次まで阿倍野キャンパスで専門教育(基礎医学、臨床医学)を履修する。2 年次の基礎医学では最先端で活躍する研究者が直接、講義、実習の指導を行っており、講義では、生命の基本である分子、細胞、代謝、遺伝、発生、免疫などの概念と実際を学び、さらには運動器、血液、脳と神経、循環器など、様々な機能をもつ器官について深く学ぶ。同時に医学史や情報学、また 1 年次に引き続きコミュニケーションや語学なども履修。実習では心電図や血液検査などの各種データについて議論を重ねて読解力や判断力を養う。3 年次になると疾病の原因と機序、治療など、より医療に近い科目が増え、例えば感染症の原因となる細菌、真菌、ウイルス、寄生虫などの病原体については感染原因、病原性、免疫などについて学び、治療薬への耐性獲得の機序なども学ぶ。また、3 年次から新たに社会医学の履修が始まる。4 年次からは診療科や中央部門ごとの科目履修が中心となり、より実践的な知識や手技を身に付けていく。科目はより臨床的・実践的な領域へと移り、各臓器や生体機能における疾病・疾患について、個々に具体的に症状、診断、治療法を学んでいくことになる。終盤に行う臨床実習入門では、5 年次から始める診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)に備え、模擬患者、人体シミュレーターも活用して可能な限り現実に近い形で診療技法、治療手技、医療人に相応しいマナーを学ぶ。5 年次になると、すべての診療科をローテートする臨床実習と病棟 Bed Side Learning が行われる。学生は、それぞれ 2 週間ずつ各診療科の一員として加わり、主治医の元で実際の患者を受け持ち、疾病の診断や病態の評価を行うための検査方法や治療計画を立案し、臨床医としての実践を学ぶことになる。6 年次には附属病院以外の教育関連病院での臨床実習(選択 BSL)を実施し、幅広い臨床技能を修得して医療現場での経験を充実させることを目指している。選択 BSL では、海外の施設における臨床実習も可能で毎年数名の学生が参加している。良い医師を育成するためには常に教育システムの再評価、あるいは学生と教員の相互評価が必要で、いわゆる Primary care を重視した、患者中心の医療ができる臨床医の育成を目的として教育内容を一層充実させるため、卒後医学教育学分野の設置をはじめ医学部教員の教育能力をさらに向上させるための取り組みを行っている。

大学 DATA

- ◆沿革 昭和 19 年創設の大阪市立医学専門学校が前身。大阪市立医科大学を経て、昭和 30 年に医学部を設置した。
- ◆学部所在地 *阿倍野キャンパス(専門教育)＝問合せ先に同じ。**アクセス** JR・地下鉄の天王寺駅、近鉄南大阪線大阪阿倍野橋駅下車、西へ徒歩約 10 分。
*杉本キャンパス(一般教育)＝☎558-8585 大阪市住吉区杉本 3 丁目 3 番 138 号 **アクセス** JR 阪和線杉本町(大阪市立大学前)駅下車、東へ徒歩約 5 分。
- ◆学部学科・定員 医学部＝医学科 95 名
- ◆大学院 医学研究科＝基礎医科学専攻 30 名、臨床医科学専攻 40 名
- ◆おもな付属施設 附属病院、刀根山結核研究所、医学情報センター、医療研修センターなど。
- ◆学寮 設置していない。

参考資料

●医師国家試験合格率

| 区分 | 全 体 | | | | 新 卒 | | | | 既 卒 | | | |
|------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|--------|
| | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 合格率 |
| 2017 | 83 | 83 | 73 | 88.0% | 79 | 79 | 70 | 88.6% | 4 | 4 | 3 | 75.0% |
| 2016 | 96 | 96 | 92 | 95.8% | 93 | 93 | 89 | 95.7% | 3 | 3 | 3 | 100.0% |
| 2015 | 85 | 85 | 82 | 96.5% | 83 | 83 | 81 | 97.6% | 2 | 2 | 1 | 50.0% |

●学校納付金(2018年度)

| 区 分 | 市内出身者 | | | 市外出身者 | | |
|-------|------------|----------|----------|------------|----------|----------|
| | 入学時 | 初年度総額 | 2年次以降 | 入学時 | 初年度総額 | 2年次以降 |
| 入学金 | 222,000円 | 222,000円 | - | 382,000円 | 382,000円 | - |
| 授業料 | - | 535,800円 | 535,800円 | - | 535,800円 | 535,800円 |
| 合 計 | 222,000円 | 757,800円 | 535,800円 | 382,000円 | 877,800円 | 535,800円 |
| 6年間総計 | 3,436,800円 | | | 3,556,800円 | | |

*授業料は前期・後期に分納する。ほかに諸会費が必要になる。

●奨学金制度

日本学生支援機構奨学金のほかに、地方公共団体や民間奨学団体の奨学金制度がある。

2018 年度入試要項

募集人員

| 区分 | 一般前期 | 一般後期 | 推薦 | A O | 編入学 |
|-----|------|------|----|-----|-----|
| 医学科 | 95 | - | - | - | - |

*一般前期の内訳は一般枠 80 名、地域医療枠 10 名、大阪府指定医療枠 5 名。地域医療枠は大阪の医療において指導的・中核的役割を担える医師を目指す者が対象、大阪府指定医療枠は大阪府内の高校または本人か保護者が府内に居住しており、大阪府内の病院で産婦人科、小児科、救急科などの医療業務に従事することを確約できる者が対象。

試験日程

| 試験区分 | | 出願期間 | 試験日 | 合格発表日 | 手続締切日 |
|------|------|-------------|-----------|-------|-------|
| 一般入試 | 前期日程 | 1月22日～1月31日 | 2月25日・26日 | 3月9日 | 3月14日 |
| | 後期日程 | 募集しない | | | |

一般入試

| 試験区分 | 教科 | 科目(→は選択科目数) | 配点 | 時間 |
|--------|-------|------------------------------------|-----|-----|
| センター試験 | 国語 | 国。 | 100 | 80 |
| | 地歴・公民 | 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、政経、倫政経→1。 | 50 | 60 |
| | 数学 | 数Ⅰ・数Aと、数Ⅱ・数B、簿、情報→1の計2。 | 200 | 各60 |
| | 理科 | 物、化、生→2。 | 200 | 各60 |
| | 外国語 | 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓→1。 | 100 | 80 |
| 個別試験 | 数学 | 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B(列べ)。 | 300 | 120 |
| | 理科 | 物基・物、化基・化、生基・生→2。 | 300 | 150 |
| | 外国語 | コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ。 | 200 | 100 |
| | 面接 | 個人面接。 | - | - |

*面接は医師としての適性及び人間性について評価する。

- * **合否判定** センター試験・個別試験の総合点で判定する。面接は総合判定の資料とするが、医師になる適性を欠くと判断されれば学力検査の成績にかかわらず不合格とする。
- * **二段階選抜** センター試験の得点が900点満点中650点以上の者を合格させる。
- * **試験場** 本学阿倍野キャンパス(JR・地下鉄の天王寺駅、近鉄南大阪線あべの橋駅下車、西へ徒歩約10分)。
- * **受験料** 30,000円

入試のポイント

前期のみ募集する。入試科目はセンター試験が5教科7科目、個別試験が数学・理科・外国語の3教科+面接。3教科とも幅広く高度な知識が試されるから、過去問を研究して教科書で基礎を完全にするとともに、参考書などで応用力をつけておきたい。今春の出題をみると、数学は(1)積分法の応用、(2)ベクトル、(3)確率、数列、(4)図形と方程式の4題。例年標準問題が多いので、教科書レベルの標準問題を数多くこなしておくことが効果的といえる。物理は(1)力学(壁との衝突)、(2)電磁気(RL直流回路)、(3)熱(分子運動論、2乗平均速度)の3題。例年記述式が主体となるから、普段から標準問題で書きなれておく必要がある。化学は(1)第3・第4周期元素の酸化物、緩衝液、(2)気体と蒸気圧、反応速度、(3)合成高分子化合物、芳香族化合物の3題。教科書レベルの標準問題を繰り返しやっておくといいだろう。生物は(1)酵素、(2)発生、(3)植物ホルモン、(4)個体群の4題。教科書の内容を十分に理解したうえで、標準的な問題集をやっておくのがいい。英語は(1)読解総合問題(音楽は集中力を高める際に助けとなるか)、(2)読解総合問題(労働形態の変化と働くことの重要性)、(3)和文英訳(昆虫はすごい)、(4)空所補充問題の4題。総合的な英語力をつけておきたい。面接は総合判定の資料とするが、医師になる適性を欠くと判断されれば学力検査の成績にかかわらず不合格とされる。

2017 年度入試DATA

●入学者選抜実施状況

* 2段階選抜は第1段階不合格者数を示す。

| 区分 | 募集人員 | 志願者 | 2段階選抜 | 受験者 | 当初合格 | 追加合格 | 合格者 | 競争率 | 入学辞退 | 入学者 |
|----|------|-----|-------|-----|------|------|-----|-----|------|-----|
| 前期 | 95 | 346 | 17 | 318 | 95 | 0 | 95 | 3.3 | 0 | 95 |

【合格者の成績】

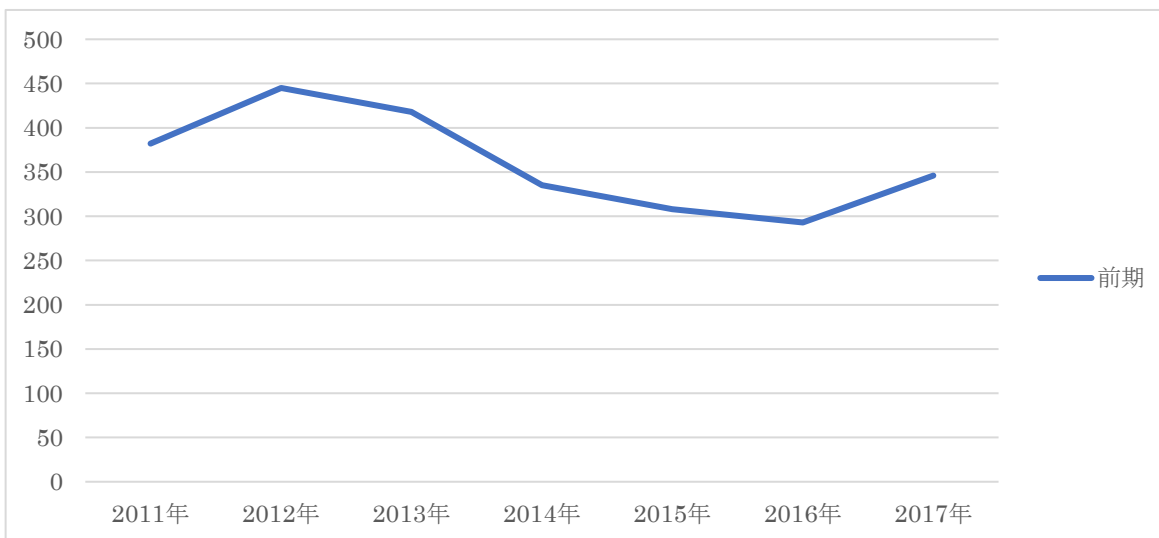
カッコ内は2016年度。

| 区分 | 配点 | 最高点 | 最低点 | 平均点 |
|----|----|------------|----------------|----------------|
| 前期 | セ試 | 650(650) | 623.7(629.5) | 588.6(592.3) |
| | 個別 | 800(800) | 717.5(664.5) | 625.1(555.2) |
| | 総合 | 1450(1450) | 1317.8(1265.5) | 1213.7(1147.6) |

* 入学者の現浪別内訳 現役 46 人、1 浪 33 人、2 浪 12 人、3 浪以上 4 人。

* 入学者の男女別内訳 男子 70 人、女子 25 人。

【志願者数の推移】



●小論文の内容

小論文は課さない。

●面接の内容

2月26日に午前と午後に分けて実施するが、詳細は受験票で支持される。1人5分～10分程度。本学志望の理由、理想の医師像について、高校時代の部活動について、得意科目・不得意科目などが聞かれることが多い。結果は総合判定の資料とするが、医師になる適性を欠くと判断されれば学力検査の成績にかかわらず不合格になる。